

平和への探求を選択したコロンビア国民

15日、コロンビアで大統領選挙の決選投票が行われ、現職のフアン・マヌエル・サントス氏が、781万票（得票率50.95%）を獲得し、対立候補の右派のオスカル・イバン・スルアガ氏に6ポイント、90万票の差を付けて再選されました。

選挙の最大の争点は、現在、政府と反政府武装勢力のコロンビア革命軍(FARC)、民族解放軍(ELN)との間に進められている、和平交渉を継続するか、打ち切るかというものでした。5月に実施された第一回投票では、右翼のウリベ元大統領が押すスルアガ候補が29.25%、サントス候補が25.69%獲得しましたが、決選投票では左派勢力が平和の道を後もどりさせてはならないとして、一斉にサントス候補の支持に回った結果、サントス候補が勝利したものです。「サントスは、2010年には右派勢力が後押ししたが、2014年は左派勢力が再選させた」といわれる所以です。

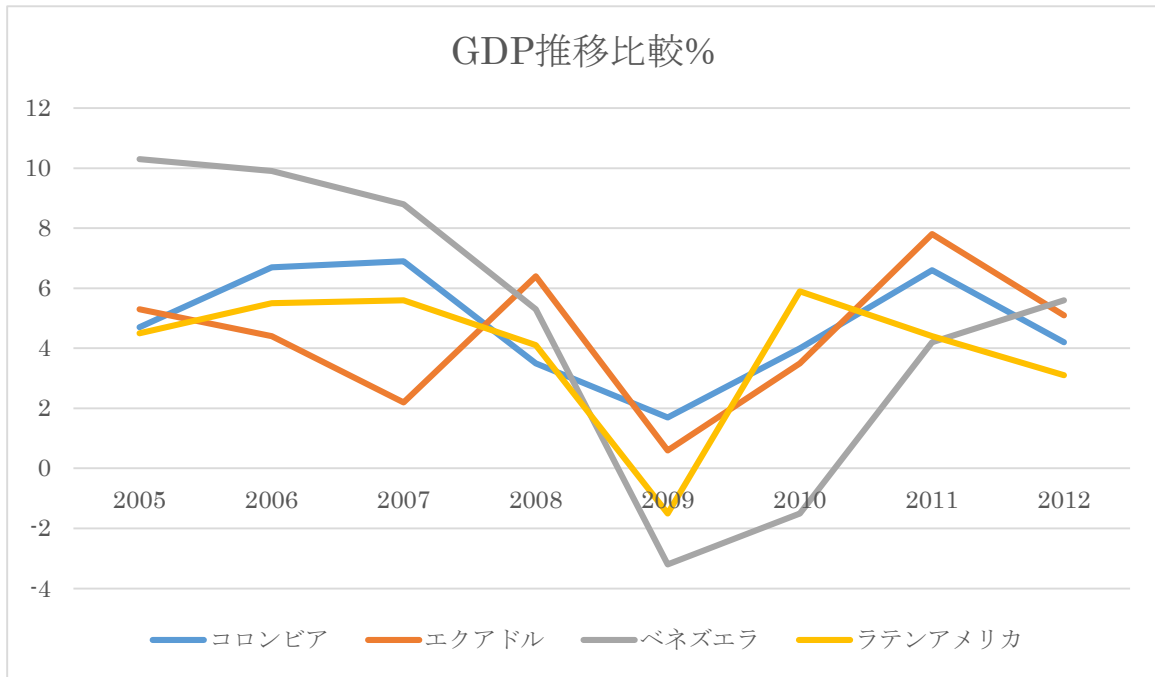
勝利宣言で挨拶するサントス大統領、胸には平和のハートのバッジ、手のひらには「平和」と書いてあります。

⇒

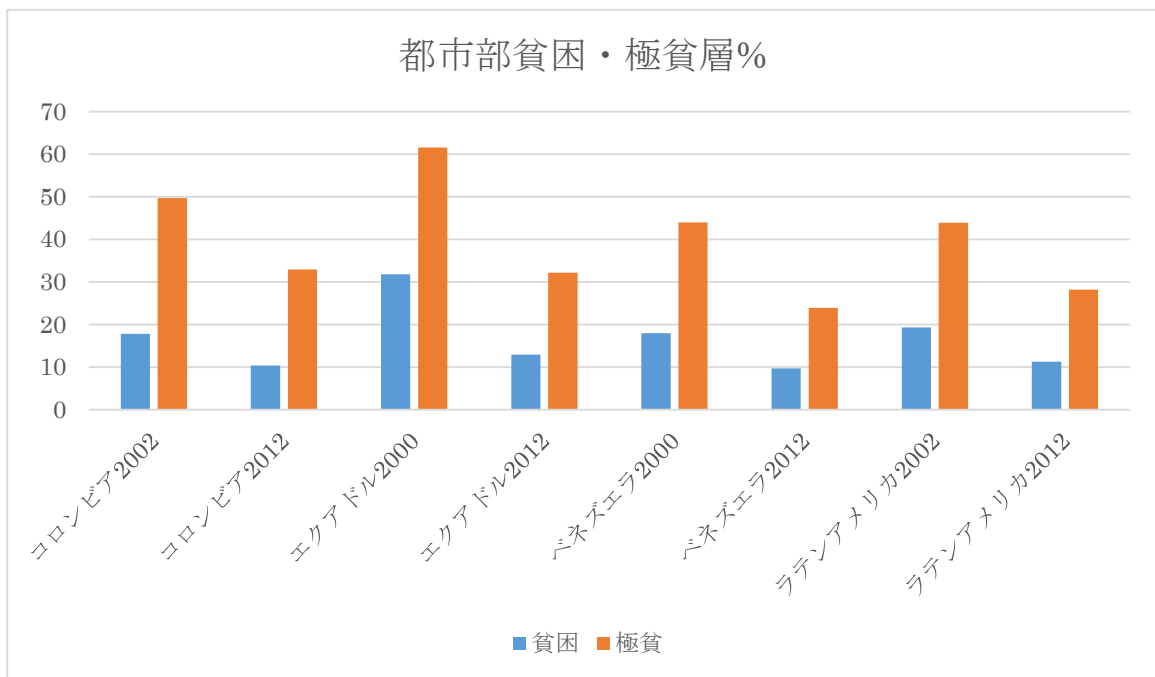


サントス大統領は、勝利演説で、「この勝利は、サントス個人のものでなく、コロンビアで平和を実現し、より公正な社会をつくろうという幅広い国民の願いが勝利したものである」と述べました。地理的には左派勢力が強い、首都ボゴタで圧勝したことが、勝利を決定づけたのですが、それだけに、今後、サントス候補が選挙中に公約した、政権の誤りを正すとともに、社会保障、労働規約の改善（残業労働への賃金支払い義務の制定）、住宅、水道などの社会福祉政策をどう進めるかが課題となります。

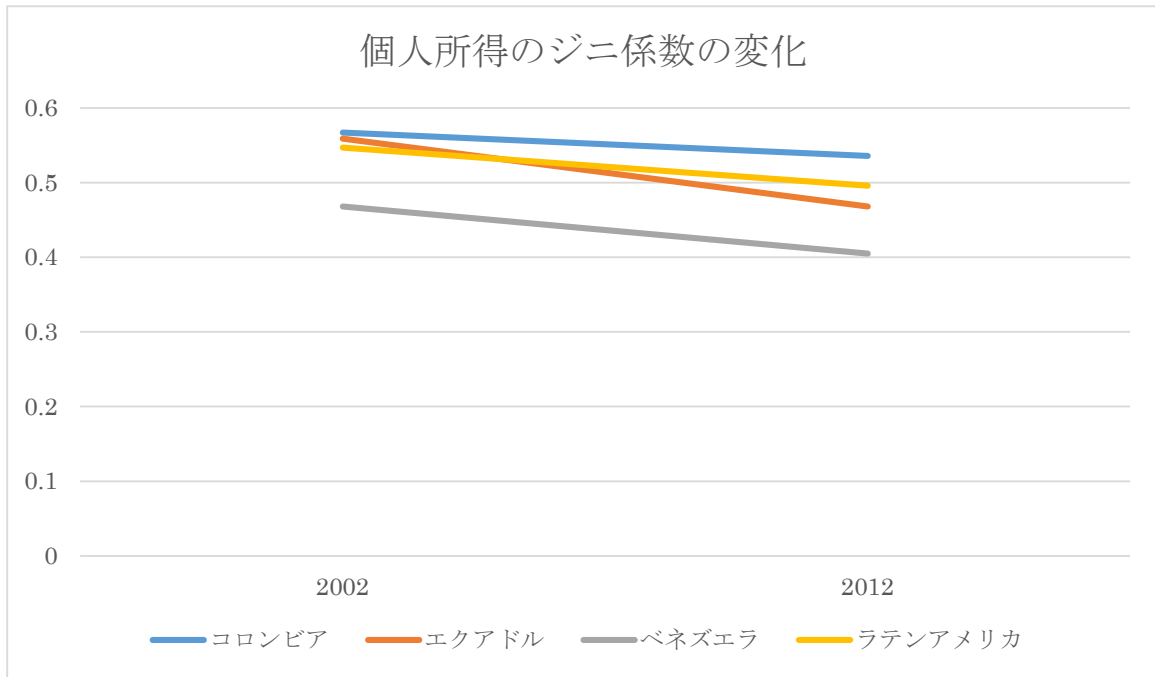
コロンビアは、近年、経済成長でも、国内の内紛から停滞気味であり、貧困問題では、近隣諸国、ラテンアメリカ諸国の改善から取り残されていることがうかがわれます。平和を確立するとともに、社会政策を追求しなければならないと、サントス大統領が、勝利宣言演説で強調している背景なのです。下記の3つのグラフを参照ください。



出典：CEPAL, Anuario Estadístico de América Latina y el Caribe, 2013



出典：CEPAL, Anuario Estadístico de América Latina y el Caribe, 2013



ジニ係数は、低い数字ほど格差が少ないことを示す。一般に 0.5 を超えるとその格差は危険といわれている。

出典：CEPAL, Anuario Estadístico de América Latina y el Caribe, 2013

(2014年6月16日 新藤通弘)